





石造延命地蔵



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	せきぞうえんめいじぞう
所在地	新見市唐松
指定年月日	昭和34年3月27日
解説	<p>正平12年(1357)の造立。和泉砂岩製。総高1.32m、像高0.9m。台座から仏身、舟型光背まで一石で造ってある。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ延命地蔵で、同市正田にある「朝間地蔵」「昼間地蔵」、同市西方の「夕間地蔵」等とともに、一連の像と考えられ、新見付近への地蔵信仰の広がりを物語っている。尊像の左右に銘文が刻まれており、藤原友重の発願によって建てられたものと分かる。像の膝下あたりで折損しており、「昼間地蔵」同様、「腰折地蔵」とも呼ばれ、腰に痛みを持つ人が参れば、治るといわれている。</p>
アクセス方法	
公開状況	
設備	<p>  駐車場  障害者用駐車場  トイレ  障害者用トイレ </p>
備考	